



## 優しい世の中のために

## 心あったかニュース

富山テレビ放送の、知的障害の息子のために、豆腐店を創業し、一緒に働く親子のお話がフリーニュースにありましたので、紹介します。富山県小矢部市にある豆腐店、斎藤商店は、創業31年。店主の齊藤寛明は、75歳、長男の勇旗さんは、45歳です。勇旗さんに障害があるとかわかったのは、2歳の時。医師から、将来において、言語などの知的開発は難しい」と言われたそうです。親子二人三脚で自立訓練した時期もあつたようです。実家の豆腐店で働いていた、父寛明さんがある時、勇旗さんを見て、「工場の中で、いくつも出来る仕事が出てきた。たとえばすし揚げのパック詰めが、1日多いとき500パック程、泣きながらしていた。やめてもいいよと言ってもやっていた。そのときにこの子が働ける工場を小矢部でつくりたいという夢が出来た」と思い、現在の豆腐店を立ち上げました。従業員15人のうち勇旗さんを含め7人の障がい者が働いています。

知的開発は無理と言われた勇旗さんですが、今では全国の取引先や関係者に向けた封筒のあて名書きまでできるようになりました。勇旗さんの姿に、齊藤さん夫婦は「生きる勇氣」をもらい続けていると言います。父・寛明さん 諦めずにコツコツ毎日やっていくと、いつかちゃんと成果が出てくる。ということを、あの子から学んだ。親が諦めそうになっても、あの子が頑張っている様子が伝わってくる。あの子が諦めていないのに親が諦めるわけにはいかんですよ」母・明美さん 今も奇声を発しながら仕事して変な子ですけど、いっぱいいっぱいあの子の親として、いろんな苦労はあつたんですけど、もうあの子はとつくに苦勞の恩返しはしてくれたいと思つている」

健常者や障がい者がともに暮らす共生社会を目指す時代に必要なことはを父・寛明さんは、僕がよく言っているのは、隠すなといっている。世の中を優しくするためには、ああいう子たちがいるということを知ってもらわないといけない。一人ひとり、こういう子がいるんだ。個性だということを知ってもらいたいから。一人ひとり良いところを持っているんだから、それを見つけてやって伸ばしていけば、随分

変わるんじゃないかな。それを見ている人たちが変わってくれる」と語っている。ヤフリーニュース  
重度の知的障がいをかかえた息子のため30年前「豆腐店を創業」：障がいと向き合  
い子を育て上げた夫婦は）より

### 編集後記

最近YouTubeで、自閉症のお子さんの子育てを見ましたが、変化に自分で対応できなくて、混乱してしまうことが、私達には、理解が難しいところですが、そういうことを知っていると、いいのといないのでは、私達の反応も変わるなと思えました。障害のある人に優しくできる社会は、みんなの心が豊かな社会だと思います。世の中を優しくするためという言葉が響きますね。